

玄昌石6坑

①「明神山坑」〈みょうじんやまこう〉 PDF2 の写真①

露天掘りで国内生産量トップの硯材。震災前の黒色系和硯の99%以上のシェアです。今回の企画石材。

②「硯浜坑」〈すずりはまこう〉 PDF2 の写真②

20年程前には本格的採掘を止め10年程前には全て停止しました。雄勝湾を挟んで③と対峙し石質が近似して良質でした。民家の近くにあり(震災後は住居ができなくなります)硯の採掘所としては最も見学しやすい場所といえます。再開調査期待しています。

③「御留山坑」〈おとめやまこう〉 PDF2 の写真③

玄昌石の中で最上質とされ、日本を代表する石材の一つです。現在個人所有で和硯の需要低迷により採掘コストなどの関係から10年程前に採掘が停止しています。伊達政宗愛用硯もこの石でした。再開調査期待しています。

④「唐桑坑」〈からくわこう〉

体積圧力の関係か坑上部は軟質で下部は硬質で良材。軟質な石材は加工が容易く学童用硯などとして使用されましたが、悪いイメージを作り使用されなくなりました。

⑤「水浜坑」〈みずはまこう〉

震災前は建築外癖材や飛び石の利用が主で、原石に不純物やキレ(ひび)が出やすく、硯材利用は多くありませんでした。

⑥「波板坑」〈なみいたこう〉 PDF2 の写真④

植村和堂氏が賞賛した石で、他より石質が硬く黒灰色で横筋がきめ細かに入っており金星(黄鉄鉱)が飛んだりします。鋒芒の退芒が早いのでこまめに砥石をかけた方がいいとのことですが、①⑤以外で震災前は採掘停止状態だった。PDF2の写真7・8は硯材ではないが、ビリヤード台にも使用された石材。

このように玄昌石には複数の坑がありそれぞれの特徴を持っています。(ただ、鳳来寺硯の金鳳石・煙雲石・鳳鳴石の明瞭な違いに比べると、雨畑石の稲又山・室草里・長畑各坑で採れる黒色系のものと同様、一般には見分けが難しい)